

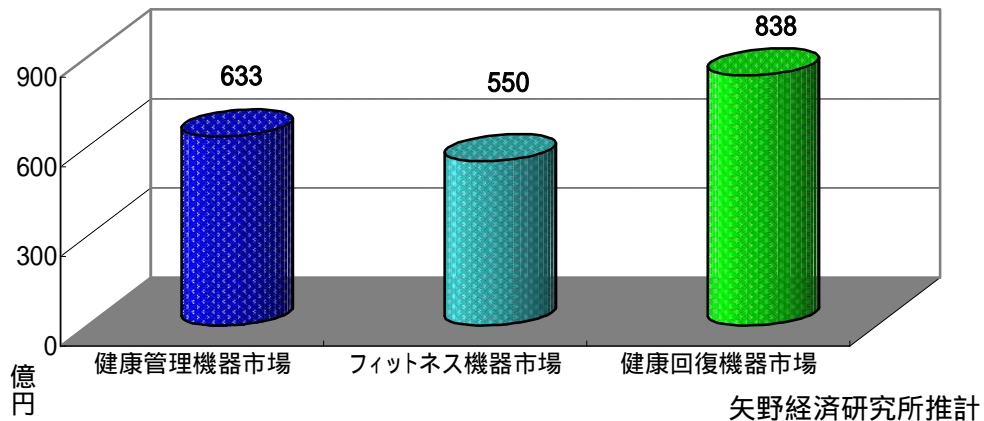
## 調査内容の解説

### << セルフケア健康機器市場の概況 >>

セルフケア健康機器市場は追い風状態が続いている。なぜなら、健康ブームが続いている上、2008 年から実施される特定健診と特定保健指導、それによって加速されているメタボリックシンドローム対策の浸透がさらなる市場活性化を導いている。

10 製品アイテムの合計によるセルフケア健康機器市場規模は 2,021 億円で、健康管理機器が 633 億円、フィットネス機器は 550 億円、健康回復機器で 838 億円。中でも、健康回復機器のマッサージチェアは 2006 年 52 万台を出荷し、605 億円となっている。(いずれも弊社推計)

図表 1 セルフケア健康機器市場 分類別市場規模 2006 年



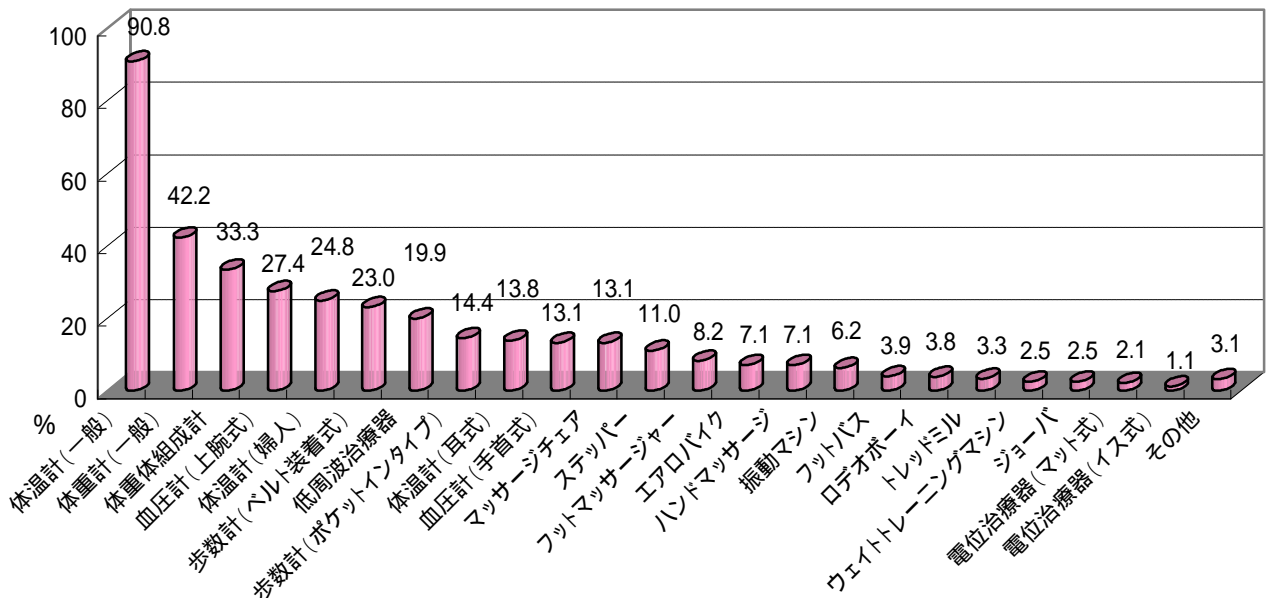
10 製品アイテム…家庭用電子血圧計、家庭用電子体温計、歩数計、体重体組成計、フィットネス機器、乗馬フィットネス、マッサージチェア、ハンディマッサージャー&フットマッサージャー、電位治療器、低周波治療器

### << セルフケア健康機器に関するインターネット消費者調査 >>

セルフケア健康機器の所有率

セルフケア健康機器の所有率トップは 90.8%の体温計(一般)。上位には健康管理機器が続き、順に、体重計(一般)42.2%、体重体組成計 33.3%、血圧計(上腕式)27.4%。フィットネス機器では、ステッパーの 11.0%、エアロバイク 7.1%で、健康回復機器では、低周波治療器が 19.9%、マッサージチェア 13.1%の順になっている。

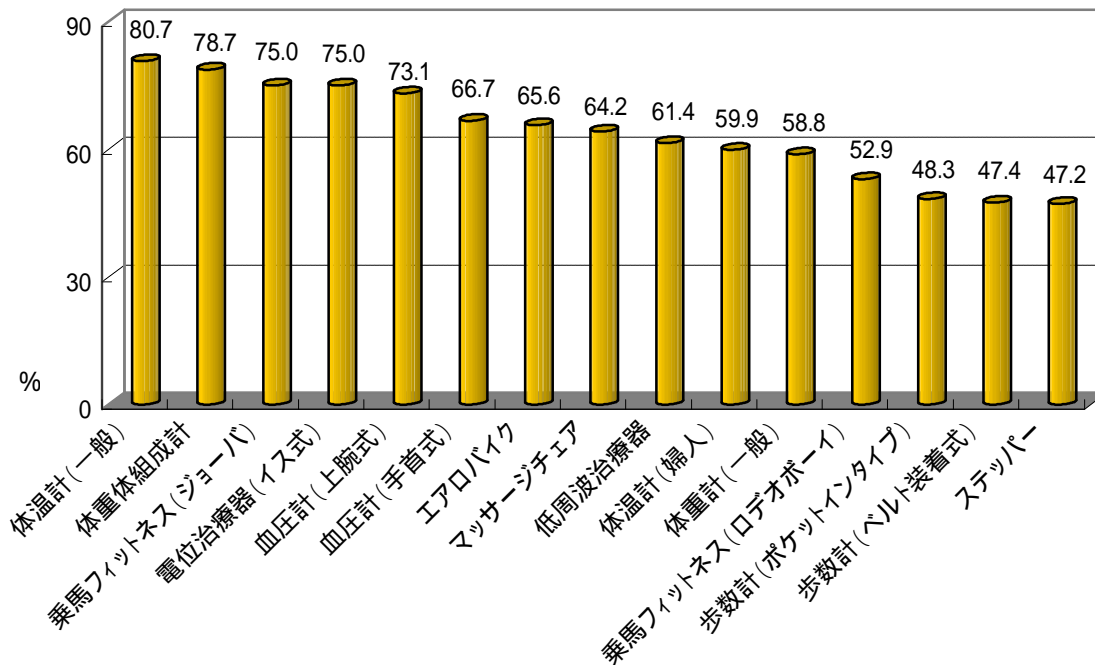
図表 2 セルフケア健康機器の所有率



### 役に立っているセルフケア健康機器

購入して所有しているセルフケア健康機器の中で、健康に役に立っている機器をみると、体温計 80.7%と一番高く、体重体組成計 78.7%、血圧計(上腕式) 73.1%と健康管理機器の満足度が高い。電位治療器(イス式) 75.0%、マッサージチェア 64.2%、低周波治療器 61.4%など健康回復機器も比較的満足度は高い。フィットネス機器では、ジョーバがトップで 75.0%。

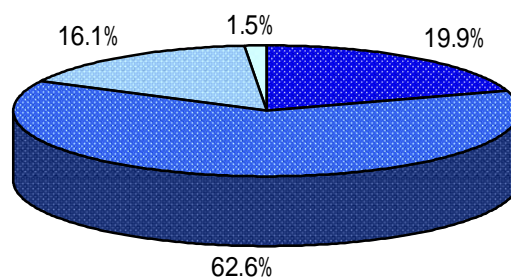
図表 3 役に立っているセルフケア健康機器上位 15 位



### 健康に対する不安

健康に対する不安状況だが、大いに不安が 19.9%、少し不安が 62.6%で、不安がある人(大いに不安と少し不安の合算)は 82.5%にもものぼる。まったく不安はない人は 1.5%にしかすぎない。

図表 4 健康に対する不安の状況



■ 大いに不安 ■ 少し不安 ■ どちらかという不安 □ まったく不安はない

健康を不安にさせる原因をみると、男性、女性とも脂肪、体重が1位と2位。3位以降は、男性がメタボリックシンドローム、目、歯、腰痛と続き、女性は、目、ストレス、歯、腰痛の順。メタボリックシンドロームについては女性21.2%に対して男性が41.4%、ストレスでは女性46.1%と男性26.8%の違いが目につく。

図表5 健康を不安にさせる原因の男女差

男性			女性		
脂肪	151	57.9%	脂肪	151	62.7%
体重	144	55.2%	体重	143	59.3%
メタボリックシンドローム(生活習慣病)	108	41.4%	目	116	48.1%
目	108	41.4%	ストレス	111	46.1%
歯	100	38.3%	歯	111	46.1%
腰痛	90	34.5%	腰痛	91	37.8%
ウエスト	88	33.7%	ウエスト	82	34.0%
ストレス	70	26.8%	子宮	65	27.0%
心臓	56	21.5%	更年期	63	26.1%
肝臓	52	19.9%	胃	51	21.2%
胃	43	16.5%	メタボリックシンドローム(生活習慣病)	51	21.2%
前立腺	39	14.9%	乳房	38	15.8%
脳	39	14.9%	心臓	37	15.4%
肺	26	10.0%	脳	35	14.5%
その他の臓器(心臓、胃、肺、肝臓、子宮、前立腺以外)	24	9.2%	その他	26	10.8%
男性女性機能障害	17	6.5%	その他の臓器(心臓、胃、肺、肝臓、子宮、前立腺以外)	23	9.5%
その他	16	6.1%	肺	21	8.7%
更年期	8	3.1%	肝臓	18	7.5%
子宮	3	1.1%	男性女性機能障害	3	1.2%
乳房	3	1.1%	前立腺	1	0.4%
合計	261		合計	241	

世代別運動状況

世代別に日ごろの運動状況を確認すると、60代の毎日運動する23.0%に対して、20代5.6%、30代6.7%、40代5.8%、50代8.1%と格差がある。また、ほとんどしないでみても20代61.3%に対して60代30.3%と2倍以上の格差がある。

図表6 世代別運動状況

